

# 地域の皆様と利用者様をつなぐ架け橋

南山城学園のカフェや商品をご紹介します。



## ぷちぼんと kitchen+farm

自家農園で作った野菜を使用。  
11:00～15:00  
ランチタイム 11:00～14:00  
⑤日曜・祝日、月曜、第3土曜  
京都府城陽市富野東田部69番地1  
障害者支援施設「凜」内  
TEL 0774-56-7881



## カフェ ふらんたん

テラス席もある一軒家。  
11:00～16:00  
ランチタイム 11:00～14:00  
⑤第1月曜、日曜・祝日  
京都市伏見区日野西川類4番地2  
TEL 075-575-2413



## カフェ さびゆいえ

低農薬野菜のお料理を提供。  
10:00～15:00  
ランチタイム 11:00～14:00  
⑤日曜・祝日  
京都府宇治市宇治蔭山9番地11  
地域福祉支援センター宇治小倉内  
TEL 0774-23-0338



## 食パン

デイセンター「ふらっぶ」  
就労継続支援B型の作業として食パンやラスクの製造を行っています。和三盆を使用し、まろやかな甘み特徴です。



## クッキー

障害者支援施設「翼」  
プロの指導を受けリニューアル。お土産などに少量からでも注文を受け付けています。



## 低農薬野菜

「ぷちぼんとファーム」(京田辺市)  
障害者支援施設「魁」「凜」  
カフェ「ぷちぼんとkitchen+farm」で提供するほか、京都市内のノウフクマルシェやクロスビア久御山にて販売。



## 堆肥

障害者支援施設「円」  
枯れ草を利用して作った堆肥は、近隣農家さんに人気です！収益の一部を「みどりのまちづくり基金」に寄付。



## アロマキャンドル

障害者支援施設「光」  
株式会社モンサンミッシェルとのコラボ商品として製作。

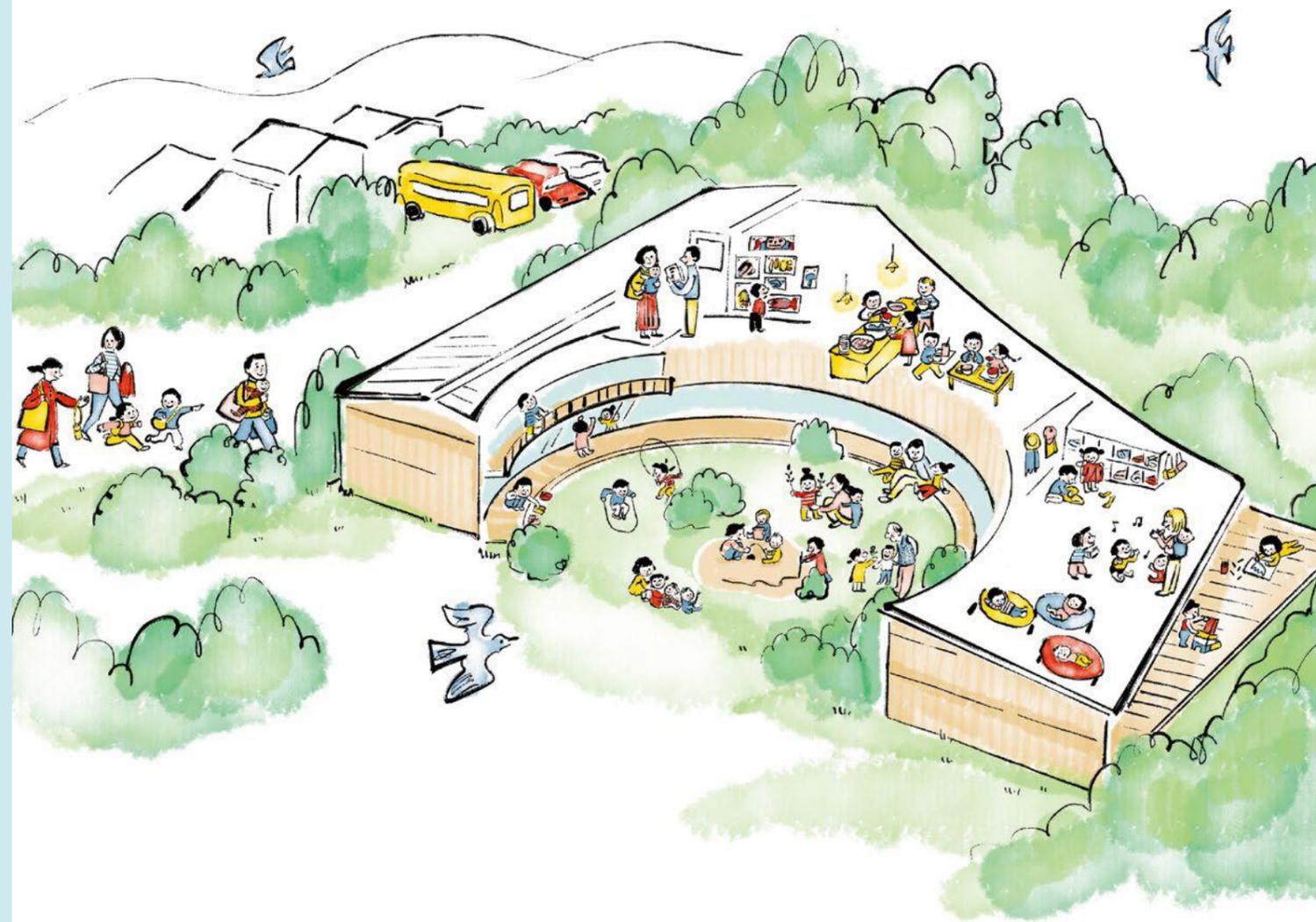


## さをり織り・縫製・木工等商品

障害者支援施設「和」  
身体障害者デイサービスセンター「すいんぐ」  
知的障害者デイサービスセンター「あっぷ」  
ポーチ、ティッシュカバー、ブランケットカバー、座布団など。京都府聴覚言語障害センター内「あんだんて」(JR城陽駅徒歩5分)やバザー等にて販売。

# ANNUAL REPORT

事業報告書 MINAMI  
2020 YAMASHIRO  
GAKUEN



# 地域の 皆様とともに

minami yamashiro gakuen  
2020.4-2021.3

## コ ロ ナ 禍 で も ぞ き る こ と を

### 子ども食堂にて 学習支援

新型コロナウイルス感染症の影響により、子ども食堂(ダイニングあんさんぶる)での食事提供が困難となりました。コロナ禍でも地域の子どもたちが安心して過ごせる居場所作りとして、小学生対象の学習支援を始めました。



### 子どもたちとの 交流・福祉教育

城陽市立富野小学校にて福祉理解教育(聴覚障害、視覚障害について)を実施しました。また、城陽市立今池保育園児を招き、芋掘りによる交流会を行いました。



### カフェに虹を! #hoperainbow2020

コロナ禍で自粛が求められる中、欧米では地域の人々を励まそうと、虹のार्टを窓に飾る運動が始まりました。法人が運営するカフェ3店舗も賛同し、地域の皆様の気持ちが少しでも上を向きますようにとの願いを込め、地域の皆様や利用者様にメッセージを書いてもらい、カフェの窓に虹を架けました。



### 大学で福祉の 魅力を発信

若手職員で構成されているGAKUEN魅力発信チームメンバーが、福祉現場で働くやりがいや魅力について、大学の授業で講演しました。



### 近隣地域で ヨガ教室

地域の高齢者の皆様の外出自粛によるストレス解消や身体機能向上のため、屋外にてヨガ教室を開催しました。



# About us

## 基本理念

### 01 利用者様の尊厳を守り、幸福を追求する。

私たちは利用者様の人としての尊厳を重んじ、一人ひとりのかけがえのない人生に寄り添い、ともに幸福を追求します。

### 02 地域のニーズにパイオニア精神で取り組み、「共生・共助」の地域づくりに貢献する。

私たちは、社会福祉法人として培ってきた専門性やノウハウを最大限に活かし、地域社会における福祉ニーズに率先して取り組み、課題解決に努めます。  
また、すべての方が住み慣れた地域で互いに寄り添いながら暮らせる福祉社会の実現に貢献します。

### 03 いつでも誰もが安心して利用できる福祉サービスを創造する。

一人ひとりの特性に応じた適切なサービスを提供するため、さまざまな事業を展開し、安心して利用できる新たな福祉サービスを創造します。

## 7つの誓い

～職員がめざすべき行動基準～

### 1 質の向上に向けた意欲と実践

私は、利用者様の幸福のため、利用者ニーズに即応して、結果を出せるよう自らが行動を起こします。

### 2 ルールと正確性の重視

私は、利用者様、職員など関わるすべての人々の安心・安全のため、ルールを守り正確性を重視します。

### 3 利用者理解と個別サービスの追求

私は、利用者様の尊厳を守り、利用者様の理解に努め、質の高い個別サービスを追求します。

### 4 セルフイメージの向上と影響力

私は、社会福祉の一端を担う者としての自覚と自信を持ち、人々に前向きな影響をもたらします。

### 5 職員の支援と育成

私は、職員として、ともに学び、成長することを、互いの喜び・楽しみとします。

### 6 チームワークとリーダーシップ

私は、チームの和を大切にしつつ、立場や状況にふさわしいリーダーシップを発揮します。

### 7 専門性の向上と活用

私は、職務に必要な専門的、組織的能力を身につけ、発展させ、活用します。

## 法人概要

|      |   |      |   |
|------|---|------|---|
| 事業内容 | ・第一種・第二種社会福祉事業<br>(障害・高齢・保育・生活困窮者)<br>・公益事業 | 経常収入 | 42億1,300万円 [令和2(2020)年度]                    |
| 設立   | 昭和40(1965)年2月                               | 事業所  | 京都府城陽市/宇治市<br>/京都市伏見区・中京区・下京区<br>/大阪府三島郡島本町 |
| 代表者  | 理事長 磯 彰格                                    |      | 障害30ヶ所/高齢4ヶ所/保育園7ヶ所<br>[令和4(2022)年 新規開設含む]  |
| 職員数  | 721名 [令和3(2021)年3月31日現在]                    |      |   |

## 事業領域

自分らしく  
幸せに暮らせるよう、  
生活全般をサポート

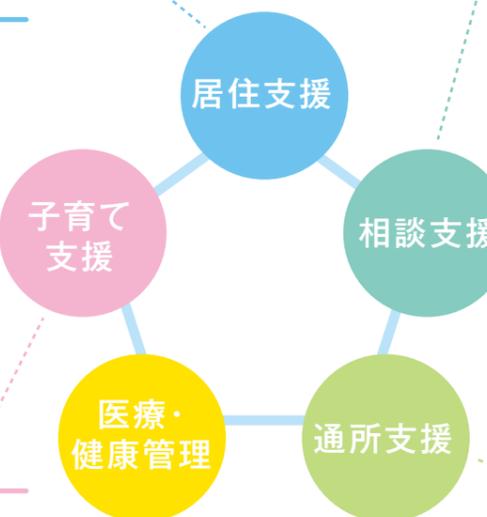
[対象] 主に知的障害のある方や介護  
保険適用の高齢の方

障害者支援施設 円(まどか)  
障害者支援施設 紡(つむぎ)  
障害者支援施設 和(なごみ)  
障害者支援施設 魁(さきがけ)  
障害者支援施設 翼(つばさ)  
障害者支援施設 凜(りん)  
障害者支援施設 光(ひかり)  
障害者支援施設 輝(かがやき)  
障害者グループホーム  
(観音堂、長池、鷺坂、宇治小倉)  
ショートステイ ふらっぶ  
介護老人保健施設 煌(きらめき)

子どもたちの  
主体性を育む保育

[対象] 乳幼児

もりの詩保育園  
小規模保育事業 かぜの詩保育園  
小規模保育事業 そらの詩保育園  
小規模保育事業 はなの詩保育園  
小規模保育事業 るりの詩保育園  
企業主導型保育所 すずの詩保育園  
認定こども園 ゆいの詩  
[令和4(2022)年4月開設予定]



住み慣れた地域での  
暮らしを続けられるよう、  
相談に対応

[対象] 障害のある方や高齢の方、また  
ご家族の方

山城北園域障害者総合相談支援センター  
ういる  
障害児(者)地域療育支援センター ういる  
障害者生活支援センター はもにい  
障害者支援センター じゃすと  
障害者就業・生活支援センター はびねす  
京都府地域生活定着支援センター ふいつと  
障害児(者)相談支援センター リーふ  
障害児(者)相談支援センター ういっしゅ  
若年者等就労支援拠点 サザン京都  
居宅介護支援事業所 すまいる  
京都市障害者休日・夜間相談受付センター

多様なニーズを受け止め、  
充実した日中活動の場を提供

[対象] 地域で暮らす障害のある方や  
高齢の方

知的障害者デイサービスセンター あっぶ  
身体障害者デイサービスセンター すいんぐ  
就労移行支援事業所 さびゆいえ  
障害者デイサービスセンター わこう  
児童日中一時支援事業所 ちえりー  
デイセンター ふらっぶ  
高齢者デイサービスセンター すまいる  
通所リハビリテーション 煌(きらめき)

医療と福祉の連携により、  
安心・安全をサポート

[対象] 主に施設利用者様

南山城学園診療所  
和光診療所

## 中期経営計画2025 2020年4月～2025年3月

「中期経営計画2025」の実践を通じて、SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)の推進に貢献していきます。

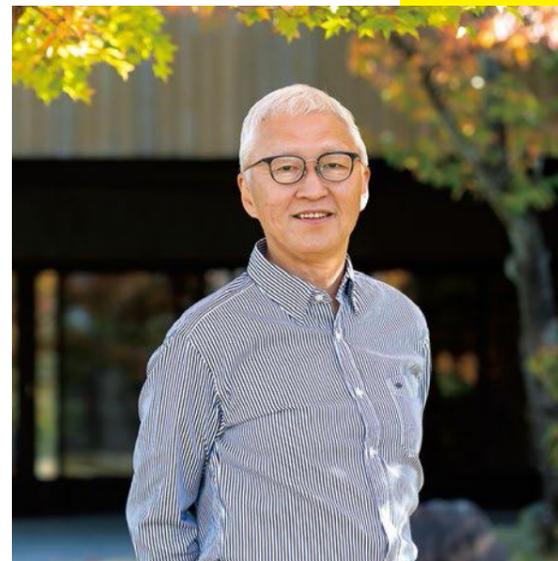
長期ビジョン

### SDGsにおける目標



|           |  |   |
|-----------|--|---|
| 創造性の発揮    | 1 共生のまちづくりへの参画<br>教育・農業・地場産業・住民組織など、幅広い関係者との繋がりをさらに強化します。また、生活困窮者や就職氷河期世代などの支援を包括した、地域共生社会の実現を目指します。                 | 1 貧困をなくそう<br>17 持続可能な開発のためのパートナーシップ                   |
|           | 2 生産性の向上<br>ロボット・ICT技術を活用し、効果的・効率的な業務運営を行います。また、利用者様の安全確保や健康管理面での先進技術開発に、積極的に参画します。                                  | 9 産業と技術革新の基盤をつくろう<br>17 持続可能な開発のためのパートナーシップ           |
|           | 3 研究と実践の連係<br>サービスの質の向上のため、産官学と連携し共同研究・発信を行い、新たな担い手の育成を図ります。また、他法人と連携し、高齢知的障害者支援に関する共同研究に参画します。                      | 3 持続可能な健康を促進しよう<br>4 質の高い教育をみんなに                      |
| 経営資源の有効活用 | 4 魅力ある職場づくり<br>育児や介護などライフステージに応じた雇用形態、エキスパートからスーパーバイザーへの昇格制度など、柔軟かつ職員の能力と意欲を高める人事制度を構築します。                           | 5 ジェンダー平等を推進しよう<br>8 働きがい、経済成長を促進しよう                  |
|           | 5 人材の確保と育成<br>学生や一般求職者から選ばれる、魅力ある法人・事業所を目指します。そのため、育成制度や、多様な働き方に応じた人事制度を確立します。                                       | 5 ジェンダー平等を推進しよう<br>8 働きがい、経済成長を促進しよう                  |
|           | 6 就職氷河期世代など、幅広い就労支援ニーズへの対応<br>生活困窮者・障害者の枠組みを超え、カフェ、食品加工、農作業など幅広い「就労支援サービス」を提供するとともに、福祉的就労・中間就労から一般就労への移行を支援します。      | 1 貧困をなくそう<br>8 働きがい、経済成長を促進しよう                        |
| 暮らしの質の向上  | 7 障害者の多様な生活ニーズ、介護ニーズに対応する「暮らしの場」の整備<br>障害者の高齢化に対応するため、日中プログラムの抜本的な見直しやハード面の整備を図ります。また、グループホームを含めた地域での暮らしを支える環境を整えます。 | 3 持続可能な健康を促進しよう<br>10 人や国の不平等をなくそう<br>16 平和と公正な社会を築こう |
|           | 8 リハビリ機能を活かした高齢者・障害者の自立支援の強化<br>介護老人保健施設・通所リハビリの機能を強化し、地域の高齢者ニーズに積極的に応えるとともに、障害者の自立支援にもリハビリ機能を積極的に活用します。             | 3 持続可能な健康を促進しよう<br>16 平和と公正な社会を築こう                    |
|           | 9 異年齢保育を柱とする子育て支援の充実強化<br>異年齢保育を中心に据えた保育の質の充実を図ります。また、法人が培ってきたノウハウを活用し、子育て支援事業を拡充するとともに、既存の相談事業との連携を強化します。           | 4 質の高い教育をみんなに<br>8 働きがい、経済成長を促進しよう                    |

### いそ あきただ 磯 彰格 理事長インタビュー



## いかなる環境変化にも耐えられる 社会福祉法人を目指して

令和2(2020)年度は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックという厳しい環境下にありました。職員一丸となって感染リスク管理を行い、感染が疑われる者の早期発見・早期対応に全力を尽くしました。

この危機下において、わたしたち社会福祉法人は「いかなるときも社会になくってはならない存在」であることを再確認しました。これからも福祉サービスを持続的に提供するため、環境変化に耐えうる経営を更に追求して参ります。また、令和3(2021)年度報酬改定に迅速に対応し、強固な経営基盤を確立します。

加えて、令和4(2022)年4月には大阪府島本町に認定こども園および児童発達支援事業を開設いたします。これまでのノウハウを活かし、新たな事業を支える人材の育成に注力します。

### 2 生産性の向上

#### ～先端技術の最大活用～

「サービスの質の向上に寄与するか」「福祉の仕事のイメージを変えられるか」「効率化により職員の負担軽減に繋がるか」などの観点から、先端技術を積極的に活用しています。「リモート会議の普及」「業務記録システムの刷新」「給与明細・雇用契約など人事給与業務のペーパーレス化」「コミュニケーションロボットの導入」などを進めています。



### 7 多様なニーズに対応する「暮らしの場」の整備

#### ～多床室の個室化改修事業～

まもなく築30年を迎える障害者支援施設 紡(つむぎ、旧・榉寮)は、多床室の環境改善が懸案事項となっていました。特にコロナ禍における感染拡大を懸念していたところ、コロナ対策事業補助金を活用して、個室化改修工事を行うことが決定しました。全個室化により、利用者様に一層安心・快適な暮らしを提供します。



# 新型コロナウイルス感染症への対応

## 利用者様を守り、職員を守り、地域福祉を守る

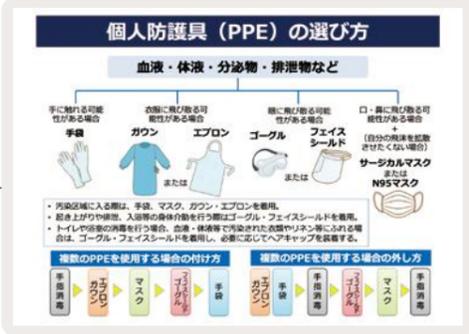
令和2(2020)年1月下旬より、新型コロナウイルス感染症の脅威が深刻になってきました。当法人内では、令和2(2020)年度における深刻な感染状況はありませんでした。日々刻々と変わる感染状況を注視しつつ、引き続き万全の対応に全力を尽くします。

### 発生状況(令和3(2021)年3月末現在)

- ・利用者様(障害者グループホーム)2名、職員3名が陽性
- ・クラスター(集団感染)や重症者の発生はなし

### 日常の対応(予防・早期発見体制の確立)

- ・利用者様・職員の健康管理を徹底
- ・毎月1回の障害者入所施設保護者会を中止
- ・後援会含む各種行事の中止
- ・職員・利用者様の不要不急の外出を自粛要請
- ・ご家族の面会制限
- ・各種会議・研修でのオンライン活用
- ・マスク・消毒用アルコール等備品の一括調達・管理(法人内の需給調整)
- ・法人独自の慰労金支給
- ・スタンダード・プリコーション(標準予防策)の策定
- ・感染予防研修の実施
- ・多床室(紡)の個室化改修(工事中)

### 発生時(発生警戒時含む)の対応

- ・当該利用者様の隔離、ゾーニングを実施
- ・行政PCR検査に先立って、抗原検査や民間PCR検査を速やかに実施
- ・給食提供方法の変更(使い捨て食器)
- ・法人内の他事業所職員の応援
- ・職員の同居家族への感染防止のため、臨時宿舎を手配
- ・危険手当の支給




# サービス向上の取り組み

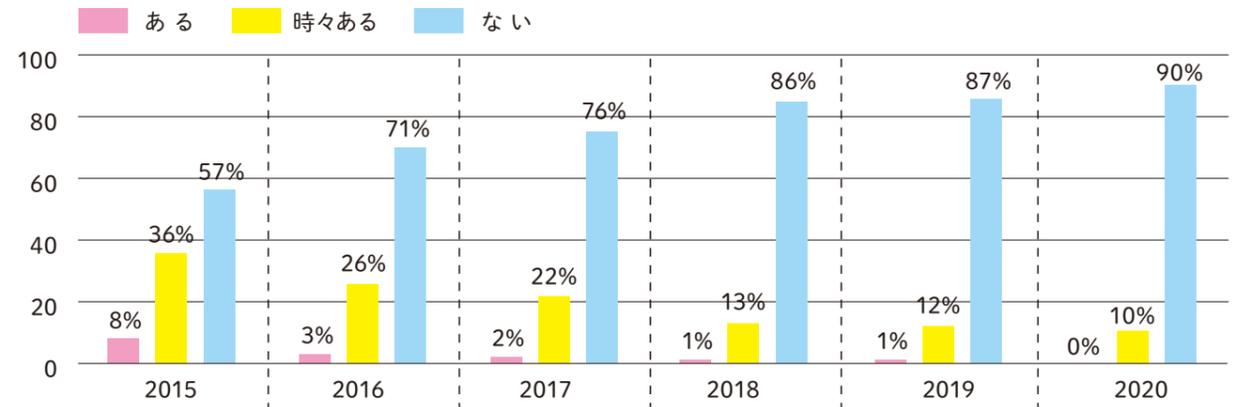
## サービス向上プロジェクト

各事業所が提供するサービスの質や業務内容等を他の施設職員が確認する機関として、虐待防止委員会の中にサービス向上プロジェクトを設け、客観的かつ専門的な立場から評価します。管理職6名、事務局1名、オブザーバーの事務局長、事業局長で構成され、2ヶ月に1回プロジェクト会議を設けています。

### 権利擁護セルフチェックを実施

令和2(2020)年12月、利用者様の権利擁護のための職員セルフチェックを、Googleフォームを用いて職員473名に実施しました。その調査結果を検証し、職員の権利意識を明らかにするとともに、課題解決に関する方策を探りました。

【Q1】利用者様を呼び捨てや「ニックネーム」、「ちゃん」付けで呼んでしまうことがある。



呼称については年々改善の傾向にあります。

私たち福祉職には、利用者様の尊厳を尊重し、対等な関係性を築いていくことが求められます。利用者様の呼称が「さん」付けであることは、当法人の絶対の方針であり、その方向性が変節することは決してありません。したがって、呼称は100%の遵守が達成されるまで、その徹底に努めます。

### 実地調査

令和3(2021)年3月、障害者支援施設円及び紡にて実地調査(施設ラウンドチェック)を実施しました。他事業所管理職3名を調査員とし、ラウンドチェックリストを基に、権利擁護の観点に基づきランダムに職員への聞き取り調査を行いました。実施後、当該所属長にチェック結果・評価を報告しフィードバックを行いました。



# リスクマネジメント

## 本部リスクマネジメント委員会の取り組み

事故に関するリスク対策部会と、大規模災害部会で、対策を検討し、研修や訓練などを行っています。

### 事故ゼロを目指して

#### — 事故に関するリスク対策部会

事故対策部会では、小単位のワーキンググループ制を導入し、部門別に活動しています。

|               |  |   |
|---------------|--|---|
| ① 投葉チェック      | 城陽エリア入所6施設に対し、昼食時の投葉チェックを実施しました。チェックシートを見直し、実施内容を各施設での改善に繋がる仕組みに変更しました。                                |  |
| ② 感染対策        | 新型コロナウイルス感染対策のための標準予防策(スタンダード・プリコーション)及び、コロナ対応の事業継続計画(BCP)マニュアルを作成しました。また法人全体におけるコロナ対策用品の在庫数の把握を行いました。 |   |
| ③ 事故報告        | 法人内全事業所の事故報告・業務改善提案書を検証し、好事例を抽出しデータベース化を実施しました。次年度は福祉見聞録(業務支援ソフト)の運用状況を絡め、報告書の書式の見直しを図ります。             |   |
| ④ リスクマネジメント研修 | AIG損害保険株式会社に講師を依頼し、安全運転講習会を開催しました。計68名の参加があり、3年間で合計287名の職員が受講しました。また、誤嚥事故対応動画を作成し、各事業所における研修の資料としました。  |   |

### もしもの備えを万全に

#### — 大規模災害部会

大規模災害部会では、令和2(2020)年度、既存のマニュアルを見直し、実効性のあるマニュアルへの改善に取り組みました。まず、初動時における「大規模災害対応マニュアル(共通版)」の見直しを図りました。法人では、震度5以上の大規模地震が発生した場合、安否確認ツールにより職員等の安否確認を行い、職員やその家族に支障がない場合、参集基準に基づき出勤を要請しています。今回、安否確認ツールにマニュアルを添付し、事前のマニュアル確認を可能としました。この改善により、迅速な救援体制に繋がると期待しています。また、各事業所の事業継続計画(BCP)マニュアルについて、その地域の状況(水害等の危険)に合わせた変更を計画しましたが、新型コロナウイルス感染症対策の影響もあり、次年度に繰り越しとなりました。大規模災害に対しては、日頃からの備えが重要です。利用者様の安全を第一に考え、今後もPDCAによるマニュアル等の改善を図っていきます。

【南山城学園・大規模災害対応マニュアル(共通)】

(目次)

|                        |   |
|------------------------|---|
| (目次)                   | 1 |
| 1-1 発災初期(動機中)          | 1 |
| 1-1-1 利用者・職員自身の安全確保、避難 | 1 |
| 1-1-2 建物、設備点検          | 2 |
| 1-1-3 管理職への連絡等         | 2 |
| 1-2 発災初期(動機外)          | 2 |
| 1-2-1 安否確認ツールによる連絡     | 2 |
| 1-2-2 参集基準(出勤基準)       | 2 |
| 2-1 初動対応(停業)           | 2 |
| 2-2 初動対応(断水)           | 2 |
| 2 飲料水の確保               | 3 |
| 3 トイレ手段の確保             | 3 |
| 2-3 初動対応(暑さ対策)         | 3 |
| 2-4 初動対応(寒さ対策)         | 3 |
| 2-4-1 テスト              | 3 |
| 2-5 初動対応(給食関係)         | 3 |
| 2-6 初動対応(医療関係)         | 4 |
| 3-1 避難・保育(事業中断)        | 4 |

大規模な地震が発生しました。皆さん、現在の状況を【②】でお知らせください。

出勤可能者は、【①】により出勤ください。

【①】 [https://docs.google.com/document/d/1CMOxO3dl\\_jw-Qf0lbpuR0MH7FFQJLj8SS1EUFJN1c/edit](https://docs.google.com/document/d/1CMOxO3dl_jw-Qf0lbpuR0MH7FFQJLj8SS1EUFJN1c/edit) やマニュアル

【②】 下記より返信してください。

<http://anpi.alsok.co.jp/minamiyamashiro/PE10001.do?action=login&P1=0&P2=0AC33816A1DC5710234DD54F131934C4ADC7&P3=134>

メッセージ全体を表示

【南山城学園・大規模災害対応マ...】  
ドキュメント

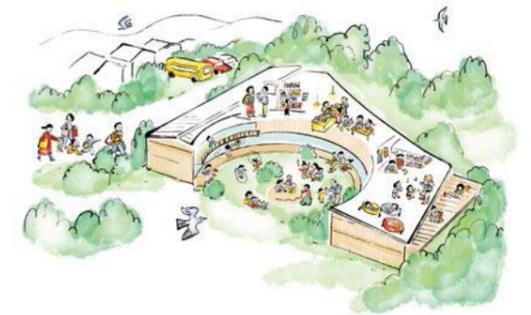
# 認定こども園

## 2022年4月、幼保連携型認定こども園を開設します

平成27(2015)年から取り組んでいる子育て支援事業のさらなる充実、強化を図ります。

### 大阪府島本町で新たに開設

当法人は、保育園および小規模保育事業を、平成27(2015)年4月より京都市中心部で、令和元(2019)年5月より大阪府島本町で展開しています。大阪府島本町は、JR京都線・阪急線ともに京都駅・大阪駅(梅田)のほぼ中間にあたり、交通至便な住宅地として、近年、人口が増加している地域です。その一方で、待機児童問題が深刻化しており、平成30(2018)年11月には「保育基盤整備加速化方針」が定められ、保育園や認定こども園の整備が進められています。そこで、当法人は、旧・島本町立第四保育所跡地への幼保連携型認定こども園整備事業に応募し、令和2(2020)年8月に事業予定者に選定されました。現在、令和4(2022)年4月開園に向けて、開設準備を進めています。



### 「認定こども園 ゆいの詩」(概要)

- ・幼保連携型認定こども園 定員150名
- ・所在地:大阪府三島郡島本町桜井二丁目433番地2 (JR島本駅 徒歩5分)
- ・病児保育室を併設
- ・児童発達支援事業所を併設

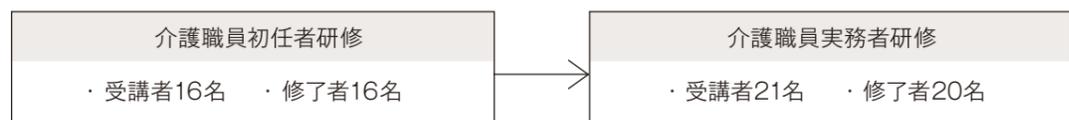
名称の「ゆい(結)」は「つながり」。異年齢保育とプロジェクト保育で子どもの主体性を育む教育・保育を实践し、園と地域が互いにつながりあい、育ちあうことを大切にします。すべては輪となって未来に向かってつながっていくイメージです。「認定こども園 ゆいの詩」が地域の子育て支援ニーズにしっかりと応えできるよう、法人として全力を尽くしてまいります。

# 研修、実習受け入れで地域貢献

## 法人主催の研修

例年、京都府内を中心に、地域の福祉人材を育成する観点から、法人職員のみならず外部の福祉職員にも対象を広げ、研修を開催しています。令和2(2020)年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、法人主催の強度行動障害支援者養成研修は中止、また介護職員初任者研修及び介護職員実務者研修は、法人職員のみを対象として開催しました。

### 介護福祉士



働きながらの試験勉強を支援するために、介護福祉士受験対策講座も開講しています。

### ガイドヘルパー

知的・精神障害者移動支援従業者(ガイドヘルパー)養成研修課程

- 京都光華女子大学……受講者20名、修了者19名
- 大谷大学……受講者21名、修了者21名

知的障害者移動支援従業者(ガイドヘルパー)養成研修課程

- 大阪府島本町……受講者11名、修了者11名



## 実習受け入れ

社会福祉系または保育系の免許状、及び小学校または中学校教諭の免許状の授与の要件として、現場実習が義務付けられています。

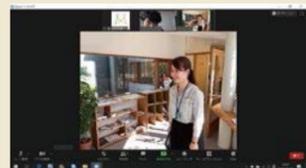
|             |   |
|-------------|---|
| 社会福祉士相談援助実習 | 京都女子大学(6名)、同志社大学(1名)、花園大学(1名)、大阪歯科大学(1名※学内実習に切り替え)            |
| ソーシャルワーク実習  | 龍谷大学短期大学部(3名※リモート実習に切り替え)                                     |
| 保育施設実習      | 京都光華女子大学(7名)、京都文教短期大学(6名)、華頂短期大学(4名)、京都保育福祉専門学院(4名※学内実習に切り替え) |
| 介護等体験       | 佛教大学(1名)  |



### オンラインインターンシップの取り組み

令和2(2020)年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策の観点から、オンライン及び宿泊型のインターンシップを推奨しました。42名のインターンシップ生のうち、14名がオンラインで実施しています。オンラインの強みは遠方の学生にも参加しやすくなることです。動画を多用し、スタッフとの意見交換を充実させることで、従来の対面型インターンシップにはない満足感を得、より興味関心を持ってもらい、採用に繋がるケースもありました。

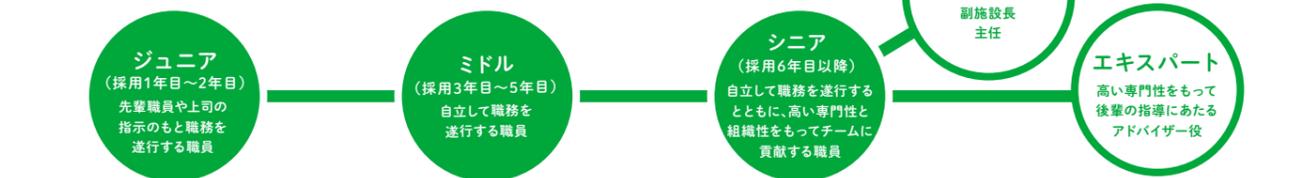
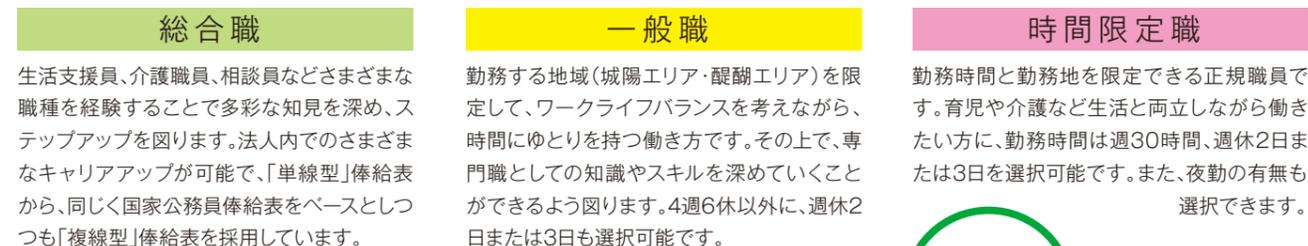
インターンシップは、法人事業を理解してもらう機会のみならず、優秀な人材獲得の機会でもあります。今後も、学生の好奇心と意欲を引き出すプログラムの提供に努めます。



# 多様なキャリアプランと研修制度

## 正規職員制度は働き方に応じて3区分に

本人の希望やライフスタイルの多様化に合わせて、働き方を選択できるように、正職員制度は「総合職」「一般職」「時間限定職」の3つの区分を設けています。



## スーパーローテーション制度の導入

令和2(2020)年4月よりスーパーローテーション制度による人事異動を行っています。スーパーローテーション制度とは、1年ごとに他部門(施設)へ異動する制度で、様々な現場を経験することで、人材の早期育成を図ります。対象となる職員は、総合職の新規採用職員から、採用選考の状況・資格取得状況・本人希望を勘案したうえで4~5名程度を指名します。その他の職員は標準ローテーションです。



|       | スーパーローテーション                  | 標準ローテーション             |
|-------|------------------------------|-----------------------|
| 対象者   | 総合職の中から新規採用時に指名する            | 総合職スーパーローテーション以外の職員全員 |
| 異動期間  | 採用から4年間1年ごとに異動する             | 原則として、同一部門2年以上        |
| 配属先   | 障害・高齢の入所施設                   | 全部門が対象                |
| 5年目以降 | 全部門ありうるが、相談部門へ配属される可能性が比較的高い | 全部門の可能性がある            |

### あっち行け! コロナくじ

平成29(2017)年より、福利厚生の一環として「職員交流パーティー」を開催しています。令和2(2020)年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、10月にオンラインでの職員大抽選会「あっち行け! コロナくじ」を開催しました。1~3等及び理事長賞の当選者には、後日授賞式を行いました。



### きょうと福祉人材育成 上位認証を取得しています

「きょうと福祉人材育成認証制度」は、人材の育成・定着に取り組む福祉事業所を京都府が認証し、学生等に福祉職場の情報を提供することを目的としています。平成25(2013)年度に創設され、当法人を含め、5つの事業所が初の認証事業者に選ばれました。現在、285の事業所が認証されています。平成29(2017)年には、さらに上位の取り組みを実践し、福祉業界を牽引する事業所が認定される「上位認証」を取得しました。





## 「細やかで質の高いサービスを提供」 第三者評価で総評

令和3(2021)年2月、第三者評価を受診しました。受診する過程において、全体的なサービスの向上を目指し、サービス向上委員会のメンバーを中心にチェック項目の中で不十分な箇所の改善を進めました。その結果、対象項目全てがA評価となり、「細やかで質の高いサービス提供ができています」との総評を受けました。



## 事故減少への取り組みの強化

リスクマネジメント委員会において、事故対応策の考察とともに、事故報告書やヒヤリハット報告書の作成手順・周知方法の見直しを行いました。これにより、対応策の策定と職員への周知をより迅速かつ確実に行うことができ、前年度と比較して事故件数が減少しました。



## 堆肥を通じた地域活動

作業活動として実施している堆肥作りの材料の草を、木津川運動公園より供給してもらうことができました。令和2(2020)年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実現しませんでした。今後は生産した堆肥を近隣の学校や駅等の花壇に使用してもらう取り組みを進めます。

## 次年度に向けて

災害や感染症に対する予防的取り組みと、発生した際の対応が確実にいえるよう、研修や訓練で実践的な取り組みを実施します。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で委託作業や自主製品の材料が減少したため、そのような状況でも安定した日中活動の提供ができるよう活動の見直しを行います。

また第三者評価の結果を受け、さらなるサービスの質の向上、丁寧な対応の定着に努めていきます。

事業内容：生活介護60名、施設入所60名、短期入所4名

利用者層：重度知的障害者

所在地：城陽市富野狼谷(本園)

施設長：松井 一真

## 高齢化への次なる対応 ～2施設への再編計画が進行～

法人内の入所障害部門における高齢化対応施設として、今後の利用者様の更なる状況変化に対応するため、京都府の認可を得て障害者支援施設 和を2施設に分割しました。障害のある高齢の利用者様に対し、法人理念に沿った支援を展開していくため、課題整理を継続的に進めました。年度末からは障害者支援施設 紡(旧・和(様寮))の個室化改修事業及び大規模改修事業に着手しました。令和3(2021)年度にかけて整備を行い、高齢障害者への支援の質の更なる向上に向けての土台作りの見通しが立ちました。



## 服薬支援における 業務改善で大きな成果

服薬支援の過程で発生する落葉に焦点を当て、発生のプロセスを検証し、対策の立案・実施評価を繰り返し行った結果、落葉発生件数の大幅な縮小に繋がりました。実践した一連の経過をまとめ、法人が毎年開催する「実践研究発表会」にて報告を行いました。



## 次年度に向けて

個室化改修工事を進める上でこれまでのサービス提供の見直しが必要となります。支援内容の点検・見極めを行い、和からの支援を継承しつつ紡独自の支援を構築し、高齢期にある利用者様が求める支援の在り方を積み上げていきたいと思えます。

事業内容：[紡]生活介護40名、施設入所40名、短期入所2名 [和]生活介護35名、施設入所35名、短期入所2名

利用者層：知的障害のある高齢者

所在地：城陽市富野狼谷(本園)

施設長：山口 嘉信

## 法人のスケールメリットを活かした自家農園の一体運営

障害者支援施設 魁と凛が共に積み上げてきた畑のノウハウや就労支援の実践を掛け合わせた農園の一体運営を開始しました。

共に活動することにより、それぞれの強みを活かしながら、これまで実現できなかった幅広い農作物の収穫、質の高い実践を実現させていくための一歩を踏み出すことができました。



## 学習スペースの提供

地域貢献の一環として取り組んでいた子ども食堂「あんさんぶる」は、コロナ禍で開催することができませんでした。

しかし、そのような状況でも何かできることはないかとコアメンバーで検討を重ね、感染予防に配慮しながら学習支援を開催し、地域ニーズに応えられるよう努めました。運営スタッフは、若手職員や学生が中心となり、地域課題への関心を高めるとともに、地域との一体的運営を目指しながら取り組みました。



## 次年度に向けて

自家農園を活用したエコ活動を開始します。

近隣の飲食店や家庭内の生ごみを堆肥としてリサイクルし、農作物を収穫する循環型ファームを目指します。「学べるファーム」をテーマに、地域と施設が一体となり、環境にやさしいエコ活動や食育などを発信することで、地域社会へ貢献していきます。

事業内容：生活介護54名、就労継続A型11名、就労継続B型15名、施設入所60名、短期入所1名

利用者層：就労を希望する障害者 所在地：城陽市富野狼谷(本園)

施設長：下前 拓也

## 利用者様の加齢に伴う身体機能の変化に見合った生活リズムの確立を

利用者様の加齢に伴う変化に応じ、ユニットの配置や職員体制の見直しをユニットリーダー会議にて行いました。日中活動プロジェクトを立ち上げ、利用者様個々の興味関心や特性に合わせた活動のあり方の検討を進めました。



## 支援職としての倫理性／知識技術の向上を目指し、施設内研修を見直しました

施設の実情に合ったプログラムとなるよう、施設内研修の見直しを行いました。支援者として必要な「知識」「技術」「姿勢」を深められるよう年間計画の策定に取り組みました。

## サービスの質の向上に向けて～第三者評価を活用～

第三者評価の受診にあたり、項目ごとの役割分担を行いました。施設全体で共通評価シートに基づく自己評価に取り組み、施設運営上、またサービス提供に関する課題を明確にする機会となりました。

## 次年度に向けて

重度の知的障害と自閉症を併せ持つ方への支援を通じた「学び」を整理します。支援者向けの強度行動障害支援者養成研修の開講、また学生への実習指導内容をブラッシュアップし発信することで、福祉人材の育成に繋がっていきます。

事業内容：生活介護35名、施設入所35名、短期入所2名

利用者層：重度知的障害者 所在地：城陽市観音堂甲畑

施設長：西田 武志([知的障害者デイサービスセンターあつぷ]センター長 兼務)

## 法人のスケールメリットを活かしたファーム(畑作業)班の共同化

これまで、凜と魁はそれぞれ別の場所で畑作業を行っていましたが、作業内容の向上及び効率化を図るため、凜で使用している畑の環境を整備し、共同化を行いました。凜だけでは負担が大きかった納品を魁に依頼することで、農家が出店する産地直送市場に出荷することができました。規模が大きくなったことにより、利用者様にも適材適所で得意を活かした作業に取り組んでもらうことができました。



### 運動プログラムの見直しで 重度化・高齢化に伴う事故防止

既存の運動プログラムを活かして、特に支援が必要な7名の利用者様を中心に、筋力低下、運動不足解消へのアプローチを行いました。令和2(2020)年度は煌の理学療法士(PT)の協力も得て、さらに分かりやすく楽しめる要素も加えた内容へとプログラムを見直し、積極的に参加してもらえるようプロジェクトメンバーで会議を重ねました。利用者様には、個別の空き時間にも運動するなど、意識を高く持ってもらうことができました。



### 障害理解の促進を保育園にも

令和元(2019)年度に引き続き、城陽市立富野小学校への出前授業を担当しました。新型コロナウイルス感染症の影響で交流が難しい状況の中、ビデオ学習を取り入れて障害理解に関する出張授業を実施しました。また、隣接する清心保育園とも、カブトムシを通じて交流を図る予定でしたが、残念ながら交流イベントは中止となりました。

同じ地域にある凜の存在を園児の皆様にも知ってもらえるよう、今後も交流を続けていきたいと思っております。

### 次年度に向けて

委託作業班に新作業(昆虫班)を導入し、新たな自主製品を販売できるよう作業内容の充実を図ります。自主製品を通じ、利用者様に地域との繋がりを感じてもらえるような取り組みを行います。

事業内容:生活介護49名、施設入所40名、短期入所2名

利用者層:重度知的障害者

所在地:城陽市富野東田部

施設長:小関 徹史

## PECSの活用、利用者様の7割に

PECS(Picture Exchange Communication System:絵カード交換式コミュニケーションシステム)とは、話し言葉によるコミュニケーションに困難を有するあらゆる年齢層の人を対象とした、絵カードを用いた補助・代替コミュニケーションの手法です。現在、光では約7割の利用者様がPECSを活用し、周囲の人たちに自分のより確かな意思を伝える試みに取り組んでいます。職員のスキルアップを図るべく毎月開催している、精神科医/門 眞一郎氏との勉強会では、延べ50ケースの事例検討を行い、実践力の向上に努めました。



### 健康づくりのための 身体活動・運動を推進

施設の開設から10年が経過し、中高年層が中心となりつつある利用者様(平均年齢47歳)の「身体機能の維持・向上」に焦点を当て、日中活動を中心に日常生活における身体活動量の増進に取り組みました。利用者様個々の歩数調査により、活動量の確保に一定の成果が認められましたが、これからも引き続き、健康づくりに資する取り組みを推進していきます。



### 次年度に向けて

長引くコロナ禍において、事態収束までの道筋が未だ見通せない状況にあります。次年度も引き続き「感染症対策の強化」を重点項目に位置付け、感染予防の徹底を図るとともに、感染症発生時に備えた対応体制の構築に取り組めます。

事業内容:生活介護42名、施設入所42名、短期入所3名

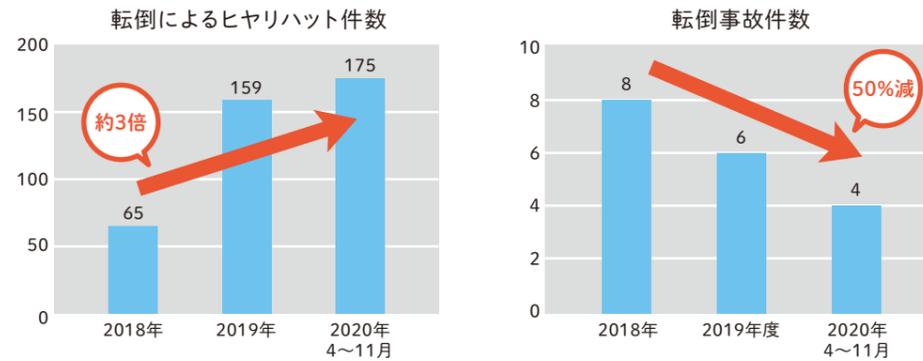
利用者層:重度知的障害者

所在地:京都市伏見区日野(醍醐)

施設長:奥村 一貴(障害事業局長<醍醐><島本>兼務)

## ヒヤリハットの奨励で転倒事故が5割減に

気付き(ヒヤリハット報告)が増えることによって事故件数は減るという仮説に基づき、検証・取り組みを進めました。転倒に関するヒヤリハット報告数は、平成30(2018)年度から令和2(2020)年度にかけて約3倍に増加し、転倒事故数は50%減少しました。



## 利用者様が理解しやすいよう情報提供方法を見直しました

自治会において、利用者様への伝達を口頭説明からパワーポイント等の映像説明に変更し、利用者様を対象とした権利擁護研修を開催しました。

この取り組みは、自治会に留まらず、ご家族向けの広報誌、地域の小学生向けの施設紹介動画の作成、統一した支援に向けた手順書作成など、多方面への良い波及効果が見られました。



## 次年度に向けて

令和2(2020)年度は、第三者評価受診結果から明らかとなった課題を改善させるべく、計画的に事業を進めてきました。次年度は、2か年に及ぶ改善計画の最終年度となります。取り組みの余地がある項目に重点を置き、根拠となる資料作りなどを進めていきます。

また、外出時における整容をテーマに様々な取り組みを進めてきました。チェックシートを活用するなどのルールを策定する中で、良い成果が徐々に表れています。

次年度は、生活全般における整容介助に範囲を広げ、その改善に向けた仕組みを整えることにより、利用者様の暮らしの質の向上を目指します。

|   |                  |
|---|------------------|
| 事業内容:生活介護58名、施設入所58名、短期入所7名、児童日中一時支援事業所ちゅりー |                  |
| 利用者層:知的障害のある高齢者、知的障害児                       | 所在地:京都市伏見区日野(醍醐) |
| 施設長:村地 正浩                                   |                  |

## 利用者様の資産状況を整理し、将来的な個別計画を作成

利用者様の個別の資産状況、就労形態、必要経費等を整理し、利用者様の資産を守りつつ、将来像を見据えた生活設計を定期的に見直しました。より良い暮らしを提供できる根拠となる資料を作成し、それをもとに、今後の生活設計を立てました。利用者様や保護者様への説明を行い、支援方針を立て、モデルプランを作成しました。

## 施設臭対策を検討し、改善に繋がりました

施設臭を軽減するために、以下の対策を行い、改善に繋がりました

- ①はじめに整容・清掃・洗濯等の調査システムを構築
- ②個別状況を整理
- ③データをもとに施設臭予防・改善策を計画
- ④対策を実施し、個別の支援内容と経過、全体での取り組み内容と経過を取りまとめ

進捗状況を都度精査しながら、経過を追い、全体に周知し、利用者様へ支援策も含めた説明も行いつつ進めた結果、施設臭の軽減に繋がりました。



## 次年度に向けて

就労、資産、自立度等の状況を視覚的に整理し、根拠のある計画をもとに、将来を見据えた支援を目指します。利用者様が過ごす環境が、より快適となるよう、新たな課題抽出、改善計画を進めていきます。

|                |             |          |
|----------------|-------------|----------|
| 事業内容:共同生活援助41名 |             |          |
| 利用者層:知的障害者     | 所在地:城陽市内3ヶ所 | 室長:大矢 真弓 |



## コロナ禍でも地域貢献を ～青空介護教室～

煌では、地域の高齢者の皆様に機能訓練スペースを無料解放する取り組みを継続してきましたが、コロナ禍で中止を余儀なくされました。

その状況下において、他に地域貢献できることはないかと考え、令和2(2020)年度より、近隣集会所の公園を借用し、青空介護教室を開催しています。

地域高齢者の外出自粛によるストレス解消や身体機能向上を目的とし、感染予防を徹底しながら、講師の指導によるヨガ・ストレッチ体操を行いました。



## 「超強化型」老健への転換で経営安定化

介護老人保健施設が持つ在宅復帰・在宅生活支援機能をより充実させるべく、数年間取り組んできました。令和2(2020)年度も継続し、コロナ禍であっても、高齢利用者様の在宅復帰ニーズに的確に応え、施設機能の充実を図ってきています。

結果、施設の在宅復帰・在宅生活支援機能を評価する区分が、6月より「加算型」から上位区分の「強化型」へ算定変更となりました。12月からは最上位区分の「超強化型」に算定変更となりました。

## 特殊浴槽の導入により 職員負担を軽減

入浴介助における職員の身体的・精神的負担を軽減し、生産性の向上を図るため、補助金を活用し特殊浴槽を新規購入しました。

マイクロバブルシャワー完備のため、肌が弱い高齢利用者様の負担軽減にも繋がっています。



## 次年度に向けて

令和3(2021)年度介護報酬改定における老健評価指標見直しに合わせ、在宅復帰強化型算定を維持できるよう、体制整備を行っていきます。

また、地域高齢者の様々なニーズに対応できるよう、地域貢献事業を充実させるとともに、ユニット機能分化を進めていきます。

|                             |               |            |
|-----------------------------|---------------|------------|
| 事業内容:介護老人保健施設100名、通所リハビリ30名 |               |            |
| 利用者層:高齢者                    | 所在地:城陽市長池五社ヶ谷 | 事業統括:吉岡 弘樹 |

## 施設内のリスク対応を強化する 仕組み作り着手しています

リスク委員会を毎月開催し、サービス提供や運営上のリスク把握と、把握した事象への対応に取り組みました。日常の記録にヒヤリハットの項目を追加し、事故に繋がる可能性のある情報を収集して施設全体で確認するという流れを確立しました。

## 利用者様の興味関心に合わせたプログラムの多様化

施設内での活動プログラムや余暇活動の提案を行い、希望に合わせた個別の活動スペースを設けるなど、利用者様それぞれに合った過ごし方を検討しました。施設内だけでなく、施設の外での清掃活動も継続して実施しました。



## 衛生面の向上と施設内レイアウトを工夫し、 継続的にサービスを提供

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、消毒や体調の把握、密を避けた施設の使い方を検討しました。

徹底した感染予防に取り組むことにより、継続して開所し、利用者様の利用ニーズに応じることができました。



## 次年度に向けて

利用者様、ご家族に対する広報誌を用いた情報発信と、聞き取りに基づく意向の把握に取り組みます。情報のやり取りを通じ、サービスの質の向上に努めていきます。

|                                |              |
|--------------------------------|--------------|
| 事業内容:生活介護20名                   |              |
| 利用者層:知的障害者                     | 所在地:城陽市観音堂甲畑 |
| センター長:西田 武志([障害者支援施設 翼]施設長 兼務) |              |

## 認知症予防をもっと楽しく！ コグニサイズ(コグニション&エクササイズ)

高齢者デイサービスセンター すまいるでは、認知症予防の取り組みとして、国立長寿医療研究センターが開発した、運動と認知課題を組み合わせたコグニサイズを導入しました。

声に出して数を数えながら規則性のあるステップを踏むなどの活気ある取り組みで、意欲的に楽しんでご参加いただきました。

定期的に体力測定や臨床心理士による認知症スケール「MMSE」での評価を行ったところ、運動機能や認知機能の向上、介護度の軽減などの効果が見られました。



## 利用者様のご意見をサービスの質の向上に反映



高齢者デイサービスセンター すまいる、身体障害者デイサービスセンター すいんぐで、「利用者様満足度アンケート」を年2回実施しました。アンケート結果及びご意見ご要望に対する改善策を利用者様に書面でご報告し、施設内掲示板にも掲示しました。また、すいんぐでは、食事に関する利用者様のご意見やご質問に栄養士が答える機会を定期的に設けました。今後も、利用者様のご意見を施設サービスに反映させていきたいと考えています。

## 近隣保育園と「芋掘り交流会」を実施



令和2(2020)年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり開催が危ぶまれましたが、保育園とも協議を重ね、十分な感染対策を行ったうえでの屋外での交流として、「芋掘り交流会」を無事開催することができました。

普段見られない利用者様の一面を垣間見ることができ、また園児の皆様にも大好評でした。翌日には園児の皆様がハロウィンの仮装を披露しに来所するという嬉しいサプライズもありました。

## 次年度に向けて

住み慣れた地域での暮らしの継続に向け、高齢者デイサービスでは「生活機能訓練と認知症ケア」の充実、身体障害者デイサービスでは「機能訓練とリハビリテーション」の充実を図ります。

事業内容：身体障害者デイサービスセンターすいんぐ 生活介護20名  
高齢者デイサービスセンターすまいる 通所介護25名

利用者層：[すいんぐ]身体障害者  
[すまいる]65歳以上の高齢者(第1号被保険者)、40歳以上65歳未満の特定疾病罹患者(第2号被保険者)

所在地：城陽市枇杷庄 センター長：山代 浩史(障害事業局長<城陽><宇治>兼務)

## 理美容店の利用が困難な 子どもや家庭を支援しています

発達障害等の特性から地域の理美容店の利用が困難な子ども達が、笑顔で安心してヘアカットできるよう取り組んでいる「スマイルカット」の活動を、京都府南部における相談部署の支援ネットワークを活用して支援しました。センター城陽にて定期的に「スマイルカット」を実施し、保護者の方へのアンケートやWEBセミナーも行いました。今後は近隣の理美容店に障害の理解を広めていきたいと考えています。



## 相談支援員のスキルアップ

相談支援業務において求められる様々な知識をより深めるため、年間を通し、全相談員が課題図書を読み熟読しレポートを提出することとしました。特に精神疾患の知識・理解を深めるため、課題図書に加え、他施設の職員も対象とした臨床心理士による施設内研修を実施し、精神障害に関する基礎知識を学びました。



## 計画相談支援を強化し、前年度150%を達成

地域の中で様々な福祉サービスを利用するために必要な計画相談支援(「サービス等利用計画」)の作成と定期的な評価「モニタリング」の確実な実施に向け取り組みました。

全国的に停滞傾向である計画相談支援ですが、部署内での役割や必要実数を整理し、進捗管理を行いながら、改めて「計画相談支援」の重要性、理解を深めた結果、前年度比150%の目標数値を達成することができました。

## 次年度に向けて

相談部門のチーム支援体制と計画相談支援について、さらなる高みを目指します。また相談員のスキルアップに向けた研修や勉強会の充実を図ります。

事業内容：障害児(者)地域療育支援センターういる、山城北園域障害者総合相談支援センターういる、障害者生活支援センターはーもにい、居宅介護支援事業所すまいる

利用者層：[ういる]障害児(者) [はーもにい]障害者  
[すまいる]65歳以上の高齢者(第1号被保険者)、40歳以上65歳未満の特定疾病罹患者(第2号被保険者)

所在地：城陽市枇杷庄

センター長：山代 浩史(障害事業局長<城陽><宇治>兼務)

## 安定した事業所運営を目指して 特別支援学校の卒業生のニーズを把握

令和2(2020)年度は、年間平均稼働率の向上を図るため、特別支援学校の卒業生に利用してもらえるよう、特別支援学校を訪問しニーズの把握を行いました。ニーズを参考に、サービス提供時間の延長も視野に入れつつ、新たな活動内容や職員体制等の検討を行いました。



### 次年度に向けて

年間平均稼働率の向上に向け、引き続き関係機関への働きかけや地域のニーズ把握に努め、事業所運営に反映させていきます。特別支援学校との連携をより深め、日中活動の充実を図るなど、選んでいただける事業所づくりに努めます。

|                                |               |             |
|--------------------------------|---------------|-------------|
| 事業内容: 障害者デイサービスセンターわこう 生活介護30名 | 所在地: 京都市伏見区日野 | センター長: 小林 稔 |
| 利用者層: すべての障害者                  |               |             |

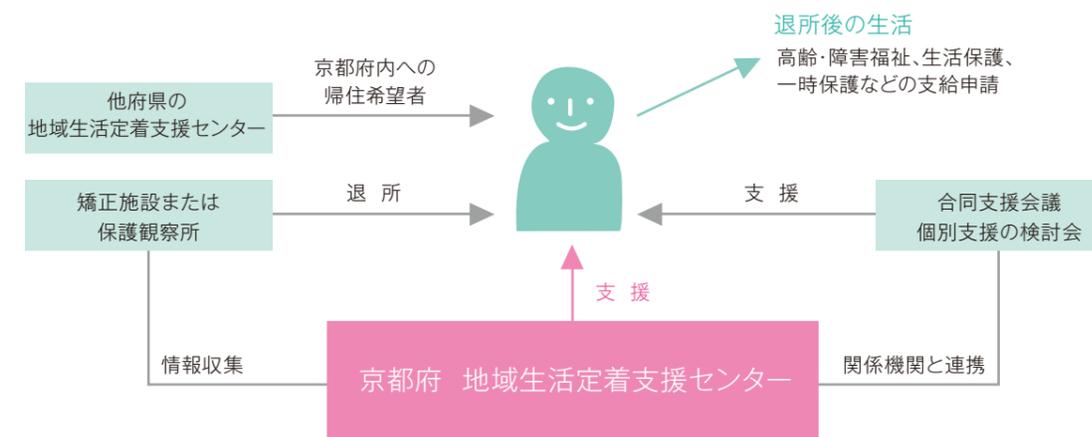
## 関係機関とのネットワークを構築

令和2(2020)年度は、全定協(全国地域生活定着支援センター協議会)近畿ブロック研修、ふいっと主催研修をそれぞれ3月に実施しました。

新型コロナウイルス感染症対策の観点から、ZOOMでの実施となりましたが、福祉・司法・行政の関係機関より参加がありました。関係機関へのアンケート結果を分析し、今後の研修企画に活かしていきたいと考えています。



## 京都府地域生活定着支援センターふいっとの支援の流れ



①コーディネート業務(退所前から)  
身元引受人の不在などで自立困難な高齢者・障害者に、ニーズ把握、受入先のおっせん、各種申請を行う。

②フォローアップ業務(退所後)  
退所後、福祉施設などを利用している方を対象に、面談、施設側への助言などを行う。

③相談支援業務(退所後)  
「懲役または禁錮刑の執行」「保護処分」を受けて矯正施設を退所した高齢者・障害者に助言や必要な支援を行う。

### 次年度に向けて

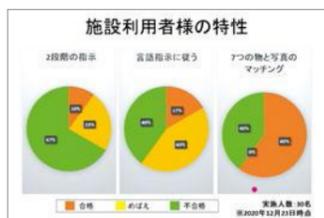
引き続き、研修や啓発活動を積極的に行います。福祉・司法・行政など職種を超えた様々な関係機関が交流することで、「顔の見える関係作り」を進め、利用者様の地域生活を支えていきます。

|   |             |
|---|-------------|
| 事業内容: 障害児(者)相談支援センターリーフ、京都府地域生活定着支援センターふいっと |             |
| 利用者層: [リーフ]すべての障害者 [ふいっと]触法障害・高齢者           |             |
| 所在地: 京都市伏見区日野                               | センター長: 小林 稔 |



## 就労継続支援B型利用者様の作業工賃のアップを目指しました

令和2(2020)年度における利用者様の月額平均工賃実績は7,400円でした。令和3(2021)年末までに月額平均工賃が10,000円に到達することを目指し、パン工場の売り上げ増収のため以下3点を実施しました。  
①増産体制の確立 ②店頭販売と訪問販売の整理 ③施設外販売  
その結果、パン工場の売り上げも目標を達成し、就労継続支援B型の利用者様の月額平均工賃は、最終的に約11,000円に到達することができました。



## 科学的根拠に基づく支援の確立を目指して ～PEP-3検査の簡易版手法の構築～

正式なPEP-3検査(自閉症・発達障害児教育診断検査)は、検査自体と、その結果をもとに分析を行うことに時間を要します。限られた検査キット及び時間の中で、全利用者様の分析を完了するには、数年スパンで時間がかかります。そこで、アドバイザーの指導を受け、利用者様の理解に特化した簡易版のPEP-3検査を確立しました。その検査結果をもとに分析を行い、より伝わりやすい支援に繋げることができました。

## 相談業務における専門性向上への取り組み

開設2年目を迎え、相談支援のさらなる充実のため、2つの取り組みを実施しました。  
①専門書等を読み、その内容を事業所内でプレゼンし、相談員間での相互学習を行いました。  
②相談員向けのセルフチェックを行い、知識等の点検に努めました。  
また、島本町在住の方を対象とした障害支援区分認定調査を新たに受託しました。令和2(2020)年度は年間51件の調査を実施しました。

## 次年度に向けて

令和3(2021)年4月、開設から3年目を迎えます。地域生活拠点事業所として、地域の利用者様が安心した生活を送ることができるよう、支援の一層の充実を目指します。

|  |
|--|
| 事業内容: デイセンターふらっぶ25名、就労継続支援B型15名、ショートステイふらっぶ1日10名、障害児(者)相談支援センターういっしゅ |
| 利用者層: [ふらっぶ]すべての障害者 [ショートステイふらっぶ、ういっしゅ]障害児(者)                        |
| 所在地: 大阪府三島郡島本町   |
| センター長: 赤塚 信隆   |

## 小学生の夏休み期間の学習支援の居場所づくり

カフェ営業終了後の時間に何かできないか考え、地域の小学生の長期休暇期間の居場所づくりを計画していました。しかし新型コロナウイルス感染症拡大により、新年度に入っても休校が続いたため、在宅学習となる子どものために「休校支援ランチボックス(1食100円)」を5月末まで販売しました。  
夏休みは短縮されましたが、感染症対策のもと、8月に予約制で小学生の居場所「フリーカフェ」を実施し、延べ25名の利用がありました。



## 就労移行支援事業所さびゅいえからの企業就職

就労移行支援事業の利用が伸び悩む中、令和2(2020)年度は11名の利用がありました(前年度は6名)。うち2名が企業就職に繋がりました(前年度は1名)。障害者就業・生活支援センターはびねすと連携し、職場定着支援を実施中です。  
就職実績の積み上げに加え、さびゅいえの認知度を上げるべく、広報チラシを医療機関(精神科デイケア)等へ配布しました。



## グループホーム併設型のショートステイの利用に繋ぐ

ショートステイは男女各1床設けています。将来的に親元を離れグループホームや一人暮らしを考えている人向けに案内チラシを作成し、児童を含む相談事業所等へ配布しました。しかしながら新型コロナウイルス感染症の影響を受け、稼働率は前年比41%減となりました。また、女性フロアに体験グループホームを1床設けていましたが、利用ニーズが非常に少ないため、宇治市と相談し、11月より通常のグループホーム居室へと変更し、新たな入居者を迎えました。



## 次年度に向けて

就労移行支援事業は、より多くの企業就職に繋げることと、動画PRを作成しての広報活動に尽力します。また、コロナ禍でも可能な地域貢献として、近隣の高齢者の方への弁当配食を計画し実施する等、地域福祉支援センター宇治小倉をもっと知っていただけるよう地域福祉の推進に取り組みます。

|   |              |
|---|--------------|
| 事業内容: 宇治小倉ホーム(共同生活援助)18名、短期入所2名、就労移行支援事業所さびゅいえ20名、障害者支援センターじゃすと(計画相談) |              |
| 利用者層: 知的障害者   | 所在地: 宇治市宇治蔭山 |
| センター長: 日置 貞義([障害者就業・生活支援センターはびねす][若年者等就労支援拠点サザン京都]センター長 兼務)           |              |

## コロナ禍であっても、多くの利用者様が就職

例年、就職件数等の年間目標値を設定しています。令和2(2020)年度は、コロナ禍で企業実習の受け入れが厳しい状況ではありましたが、概ね目標に近い人数の利用者様が就職に繋がりました。

2020年度 はびねす 実績

|        | 目標値    | 2020年度実績 |
|--------|--------|----------|
| 新規登録者  | 100名   | 120名     |
| 相談件数   | 6,500件 | 6,719件   |
| 就職件数   | 50件    | 48件      |
| 職場実習件数 | 40件    | 29件      |

### 在職者交流会の実施

はびねす登録者のうち在職中の方が、各自の就労状況の報告や、職場不適応等の問題の早期発見を行うための交流会を令和2(2020)年12月に開催しました。

コロナ禍で一層普及したICTを活用した相談の練習や、タブレットPCを用いたZOOMでの対話、オンラインでのレクリエーション等を体験しました。

8名が参加し、以下の感想がありました

- 初めてのリモート体験で緊張したが楽しめた。
- とても楽しかった。大きくはっきりした声で話さないと相手に伝わらないことを学んだ。
- 自分で最初から設定してみたい。
- リモート体験は良い経験だった。他の悩みも聞いて欲しい。



### はびねすサロンの実施

例年、在職中の方を対象とした少人数でのサロンを実施しています。

令和2(2020)年度初めは、新型コロナウイルス感染症拡大のため集まつのイベントが実施できず、下期より開催しました。9月、11月、3月の3回実施し、計16名の参加がありました。

### 次年度に向けて

障害者の未雇用や、雇用に悩む企業に対する助言を行い、また既に実践している企業との交流の場を設定し、雇用促進に繋がります。相談技術を平準化するため、ロールプレイ研修等の相談員研修を実施し、密なケース共有による相談者の自己実現に取り組みます。

|  |              |  |
|--|--------------|--|
| 事業内容: 相談支援   |              |  |
| 利用者層: 就労を希望する身体・知的・精神・発達障害者および難病疾患者                    | 所在地: 宇治市宇治蔭山 |  |
| センター長: 日置 貞義([地域福祉支援センター宇治小倉][若年者等就労支援拠点サザン京都]センター長兼務) |              |  |

## ハローワークと綿密に連携し、相談者の企業就職を実現

目標数値(新規登録120名、就職72名)に対し、新規登録162名、就職126名と、大幅に目標を達成することができました。コロナ禍による企業実習は厳しかったものの、ハローワーク等との丁寧な連携の成果があり、企業就職に繋がりました。

2020年度 サザン京都 実績

|           | 目標値   | 2020年度実績 |
|-----------|-------|----------|
| 新規サポステ登録者 | 120名  | 162名     |
| 相談件数      | サポステ  | 3,000件   |
|           | 就労準備  | 940件     |
|           | ひきこもり | 1,370件   |
| 就職件数      | 72件   | 126件     |

### 若年者や就職氷河期世代対象の就職支援(就労トレーニング)を実施

若年者や就職氷河期世代の無就業者の就職を目的とした、京都府の若者等就職・定着総合応援事業を受託しました(2コース)。地域福祉支援センター宇治小倉の多目的室を活用し、社会人基礎力等を身に付けるための座学や、カフェ・食品加工場、他に法人内事業所(介護・障害)での職場体験等により、働くことへのイメージや自信を身に付けていただき、2コースで計8名の受講者のうち7名を就職に送り出すことができました。



### 若者やひきこもり状態の相談者が集える「ZOOMカフェ」開催

サザン京都(若者サポートステーション、ひきこもり支援、生活困窮者等支援)の相談者に対し、自宅から出て同じ悩みを持つ他者との交流や情報交換ができ、かつ就労意欲の向上を目的とした居場所「夜カフェ」を継続実施しました。年度当初は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止としましたが、夏以降は感染症対策を行ったうえで実施しました。令和3(2021)年2月からは、新たにオンラインでの夜カフェも開始しました。



### 次年度に向けて

新型コロナウイルス感染症による雇用情勢の影響はありますが、次年度も京都府若者等就職・定着総合応援事業の受託実施、地域の学校等との連携、さらに相談員のスキルを向上させていくことで、障害のある方や若年者等の企業就職を実現すべく支援していきます。

|  |            |  |
|--|------------|--|
| 事業内容: 相談支援   |            |  |
| 利用者層: 若年無業者、就職氷河期世代、ひきこもり状態の方、生活困窮者等                       | 所在地: 城陽市寺田 |  |
| センター長: 日置 貞義([地域福祉支援センター宇治小倉][障害者就業・生活支援センターはびねす]センター長 兼務) |            |  |



# もりの詩保育園

家庭的な温もりのある保育を目指して運営しています。

## 子どもの主体性を育む教育・保育を実践

一人ひとりを大切に、主体性・非認知能力を育む保育を実践しています。

### ①プロジェクト保育

子どもが自ら試行錯誤したり、友だちと協力したりしながら、環境・人・物に関わることで、主体性を身につけます。

### ②ドキュメンテーション

子どもの姿やつぶやきを写真・文字で可視化することで、子どもの成長を共有し、日々の教育・保育の見える化と振り返りを行っています。

### ③目的別の保育環境

「食事をする」「寝る」「着替える」「造形活動をする」「絵本を読む」など、自立心を育てる目的別の環境を整え、子どもの気持ちを真ん中に据えた毎日を作ることで、自ら考えて挑戦していく、主体性を育む教育・保育を実践しています。



## わくわくお楽しみ会をYouTube配信で実施



新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、恒例行事の「わくわくお楽しみ会」を無観客で実施し、後日YouTube配信しました。アンケートの結果、85.7%の保護者様から「良かった」との回答をいただきました。

### アンケート内容一部抜粋

- ・親の前では注意散漫になり練習の成果が見られなかったと思うので、良かった。
- ・想像していたのとはまた違った子どもたちの姿が見られた。
- ・演じているときの気持ちなどを話しながら一緒に見ることができた。

## 次年度に向けて

令和4(2022)年、大阪府島本町に幼保連携型認定こども園が開園します。これまでの保育事業に加え、こども園としての教育・保育を見直し検討していきます。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 事業内容: もりの詩保育園60名 | 所在地: 京都市中京区 |
| 利用者層: 乳児・幼児      |             |
| 統括園長: 山崎 里美      |             |

## 地域の中で親しまれる保育園を目指して

地域の親子を対象に、保育体験や給食試食会のイベントを開催しました。また地域の商店街にて、手話を交えた絵本の読み聞かせを行い、楽しい時間を過ごしました。今後も、地域の方との交流を深めていきたいと思っています。



## 園内研修と委員会活動

施設内研修(事例研修・権利擁護・個人情報保護・救命救急講習)を実施し、職員の質の向上を図りました。また、各種マニュアルの適切な運用を図るためのリスク委員会、環境を見直すための環境委員会を取り入れ、問題解決における職員個々の目線を養いアプローチ方法を学びました。



## 次年度に向けて

保育内容のより一層の充実を図るとともに、保護者様や地域住民の皆様の期待に応じた事業展開を行います。

|   |                           |
|---|---------------------------|
| 事業内容: かげの詩保育園12名、そらの詩保育園12名、はなの詩保育園12名、るりの詩保育園19名 | 所在地: 京都市中京区、下京区、大阪府三島郡島本町 |
| 利用者層: 乳児  |                           |
| 統括園長: 山崎 里美                                       |                           |

# かげの詩・そらの詩・はなの詩・るりの詩 保育園

家庭的な温もりのある保育を目指して運営しています。

174回

障害のある方を支援して  
就職につながった人数

障害者就業・生活支援センターはびねす、  
若年者等就労支援拠点サザン京都では、  
就労へのステップアップをサポートしています。



73回

地域とのつながりを深める  
イベントの回数

地域とのつながりを深めるため、  
イベントを開催し、  
福祉の理解を促進しています。



308人

見学やイベントを通じて  
施設を訪れた人数

地域の皆様にとって福祉施設が  
「身近な存在」になることを願って、  
イベントや見学、  
施設開放などに取り組んでいます。



303人

新卒エントリー数

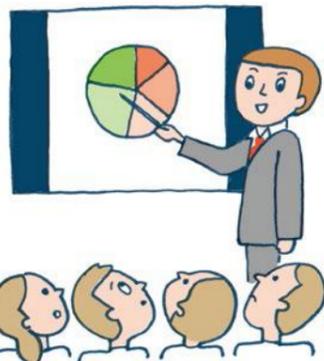
若者人口の減少傾向により、様々な企業が  
人材確保に取り組む中、法人の採用計画において  
新卒のエントリーから内定へつながる確率は  
高くなってきています。



76回

学校や講演会場に  
講師派遣した回数

「福祉の魅力」を  
知っていただくために、  
職員研修や大学の講義に  
講師として職員を派遣して  
います。



21,165人

カフェ(ぶちぼんとkitchen+farm、  
ぷらんたん、さびゆいえ)を  
利用したお客様の数

※緊急事態宣言中はお弁当販売数

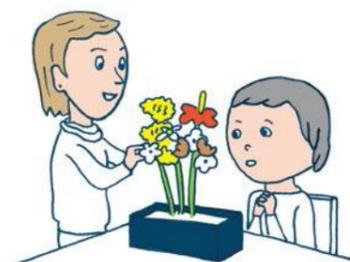
地域と障害のある方の  
架け橋となることを願って、  
敷地内にカフェを運営  
しています。



156人

ボランティア活動を  
してくださった人数

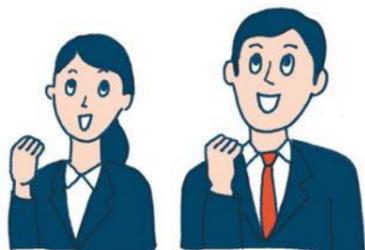
毎年多くのボランティアの方に  
サポートいただいています。  
これからも地域の皆様とともに  
さまざまなことに取り組んでいきます。



76人

実習・インターンシップの  
受け入れ人数

保育士や社会福祉士、  
教員になるために必要な実習や  
インターンシップを積極的に受け入れ、  
福祉の現場の魅力を伝えています。



260回

法人内で開催した  
職員研修の数

南山城学園では、  
職員の質の向上を目指し、  
積極的に職員向けの研修を  
開催しています。



令和2年度(2020) 法人決算報告

単位:千円

貸借対照表

|           |           |
|-----------|-----------|
| 流動資産      | 1,857,916 |
| 固定資産      | 6,497,367 |
| 資産合計      | 8,879,037 |
| 流動負債      | 489,850   |
| 固定負債      | 687,466   |
| 純資産の部     | 7,701,721 |
| 負債及び純資産合計 | 8,879,037 |

事業活動計算書

|                           |           |
|---------------------------|-----------|
| 【サービス活動増減の部】              |           |
| サービス活動収益計(1)              | 4,213,094 |
| (運営収益)                    | 4,202,327 |
| (寄附金収益)                   | 6,097     |
| (その他収益)                   | 4,670     |
| サービス活動費用計(2)              | 3,862,313 |
| (人件費)                     | 2,435,733 |
| (事務費・事業費)                 | 1,227,617 |
| (減価償却費)                   | 198,753   |
| (その他費用)                   | 210       |
| サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)     | 350,781   |
| 【サービス活動外増減の部】             |           |
| サービス活動外収益計(4)             | 12,976    |
| サービス活動外費用計(5)             | 19,032    |
| サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)    | △ 6,056   |
| 経常増減差額(7)=(3)+(6)         | 344,725   |
| 【特別増減の部】                  |           |
| 特別収益計(8)                  | 196,889   |
| 特別費用計(9)                  | 37,979    |
| 特別増減差額(10)=(8)-(9)        | 158,910   |
| 当期活動増減差額(11)=(7)+(10)     | 503,635   |
| 前期繰越活動増減差額(12)            | 3,778,031 |
| 当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12) | 4,281,666 |
| 新規事業積立金取崩額(14)            | 360,000   |
| 次期繰越活動増減差額(15)=(13)+(14)  | 4,641,666 |